

## おわりに

### 受講生一同

今回のこのような調査をするのは私たち全員が初めてで、最初から最後まですべての勝手がわからない状態であった。そもそも初めは調査地が沖縄となって、「沖縄に行ける！」という気楽な気持ちでいた。しかしいざ下準備を始めると、習ったはずの沖縄の歴史やニュースなどで見聞きする沖縄の現状を私たちは全くわかっていなかったということに気づかされた。また、戦争・観光などのテーマのもとで一体何を調査対象として選べばよいか、そこからどんな結果が得られるかなど、予想ができなかった。そして学術的な文章を書くことにも慣れておらず、事前の調査報告を書くところから私たちは苦戦していた。実際現地に行ってから、街頭アンケートをするつもりができなかったり、普段接することのない人々とのやりとりに緊張したり、あつというまの現地調査ではあったが楽しめたと同時に疲れも感じた。そして戻ってから調査のまとめ、本報告書の作成という作業に入ってしまったのである。報告書作成に関しては、出典の書き方、地図作成の仕方、エクセルの使い方等々、基本的なことから教わることとなり、頭でわかっている（感じている）ことをどうやって文章に書けばよいかや、客観と主観とを区別することに悩んだ。

今回の調査を通じて私たち全員が共通して感じたことは、単純に調査は難しい、ということである。私たちは調査というものを甘くみていた。また、私たちはこの調査において多くの情報をインターネットから得たが、沖縄が調査地に選ばれていなかったらそれらの情報を知ることがなかったかもしれない。つまりインターネットが普及して多くの情報が手に入られるのに、自分が利用しなければ何も意味がないのだ。さらに沖縄から帰ってきてからも、沖縄の現状は刻々と変化しており、関心を持っていないと見逃してしまう。世の中の流れの速さに驚き、今まで自分がどれだけ多くの事実を見逃してきたかということに恐ろしさを感じる。

そして、私たちのほんの少しの滞在や調査でなにをわかった気になっているのかと思われるかもしれないが、沖縄はやはり魅力的なところであった。本土にはないものがたくさんあり、日本国内では沖縄でしか体験できないことを私たちは体験できた。しかも普通の沖縄旅行では体験できないようなことも体験できた。当然改善していかなければならない部分も多くあるはずだが、また来たいと思える魅力をたくさんもっているところであった。私たちがこの調査で感じ取った魅力を一人でも多くの人に伝えていくことができればと思う。

最後に、この調査に関わっていただいた多くの方々に、この場を借りて再度お礼を申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

#### <付記>

今年度の地理学野外調査実習は大阪市立大学文学部・文学研究科教育支援機構2004年度共同活動支援事業による助成金を受けました。